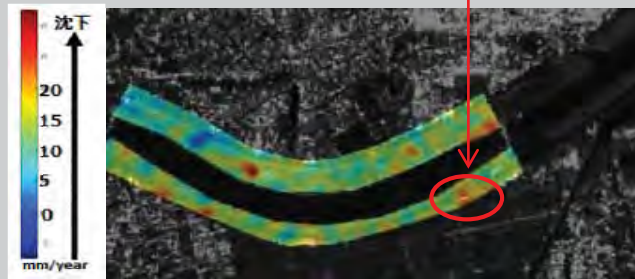


■ インフラ監視(衛星L-bandSAR解析ツールの開発)

兵庫県の円山川



- 衛星データを活用した堤防・空港等のインフラ設備の老朽化等の監視を行うツールを開発。
- 破堤後の築堤箇所を含む堤防の沈下(左図の赤枠内で年間約1.9cm)を確認。
- 2019年7月、国土交通省の公共工事への利用促進の為に運用しているシステム(NETIS)に登録。
- 2019年9月30日、第3回「インフラメンテナンス大賞」(国土交通省主催)受賞。

衛星SAR解析ツールの特徴

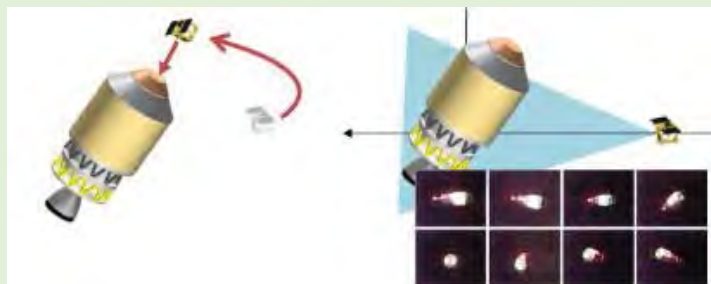
コンサルや調査・測量会社等のニーズを踏まえ、衛星SARデータを利用したことがないユーザでも容易に利用できるよう設計



■ デブリ技術実証におけるパートナーシップ型の新たな調達取組

- スペースデブリ対策の事業化を目指す民間事業の活力を利用したパートナーシップ型の取り組みとして実施。
- 民間事業者の自立・国際競争力確保を促す新たな調達方式を導入。
 - ✓ JAXAは衛星を調達するのではなく、軌道上デブリ研究に必要な軌道上データや開発プロセスにおける知見を調達。
 - ✓ 開発段階の達成基準クリア毎に、契約時に確定した金額を支払う方式とし、契約相手方に信頼性向上と低コスト化の両方のインセンティブを働かせる。
 - ✓ 事業者の技術開発提案の自由度を拡大し、民間事業者の裁量が大きく、かつJAXAの将来に向けた技術開発活動とタイアップした仕組み。

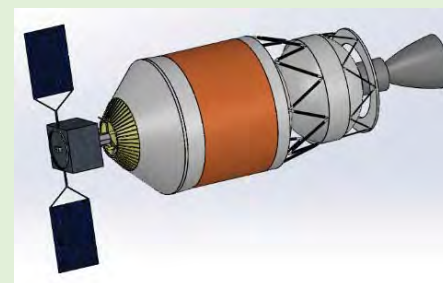
フェーズI 2022年度打ち上げ



- フェーズIサービス（デブリへの接近、近傍制御、撮像）の実施
- マイルストーン審査の実施、成果報告書の納入

世界初の大型デブリ除去へ

フェーズII 2025年度以降打ち上げ



- フェーズIIサービス（デブリへの接近、近傍制御、撮像、除去、リエントリ）の実施
- マイルストーン審査の実施、成果報告書の納入

1. 宇宙安全保障への貢献の強化および宇宙開発の牽引力としての基幹技術の維持・獲得

- ✓ 自立性を確保しつつ、宇宙分野の急速な情勢変化に迅速に対応するため、政策、技術、産業を結び付ける確固たる技術基盤、人的基盤の拡大強化が重要。
- ✓ 宇宙利用活動の広がりと安全保障上の宇宙の重要性の高まりを踏まえ、JAXAは新たな技術領域への挑戦と宇宙政策を支える基幹技術の維持・獲得を図る。また、当該技術を以って国際機関との連携を促進。

2. 宇宙システム・宇宙データの社会定着および強固な宇宙産業創出の取組

- ✓ 政府全体の宇宙利用活動を技術で支えて、その定着化に貢献していくとともに、産業界のチャレンジを後押しする取組(調達制度検討、民間移管等によるサービス事業化、データ利用促進、技術実証機会提供等)を一層推進し、産業規模拡大に貢献していく。

3. 宇宙科学・探査を推進し世界最高水準の成果を創出

JAXAは、政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核的实施機関として、宇宙政策および日本のプレゼンス拡大への貢献を果たしていく。¹¹

新たな宇宙基本計画に向けて

- 積極的に事業化にチャレンジする民間企業が増加し産業規模が拡大

培った技術・事業の移管
事業化支援

宇宙産業の発展

人材流動化の促進

- 我が国の人的基盤を基礎とした産業競争力強化
- 産業規模の拡大に合わせたプロフェッショナル人材の増加

宇宙システム・データの定着
強固な宇宙産業創出の取組

政府全体を技術で支える
中核的实施機関

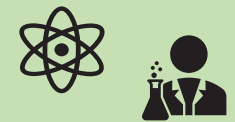


宇宙安全保障への貢献の強化
基幹技術の維持・獲得

人材の量的・質的強化
人材育成環境の構築



大学等



宇宙科学・探査
の推進



異分野

